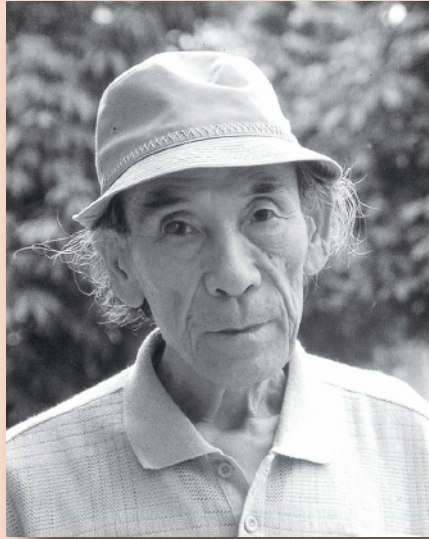




# まど・みちお

周南市

(1909～2014)



## 【著作】

まど・みちお詩集『てんぷらびりびり』(昭和43・大日本図書)  
 まど・みちお童謡集『ぞうさん』(昭和50・国土社)  
 『まど・みちお全詩集』(平成4・理論社) ほか

## 【閲覧情報】

周南市美術館 常設展示 まど・みちおコーナー  
 図録『まど・みちおのうちゅう』(平成27年・周南市美術館)  
 図録『まど・みちおえてん』(平成21年・周南市美術館)  
 まど・みちお100の世界(公式HP <https://www.mado-michio.com>)  
 周南市立中央図書館 まど・みちお文学コーナー

まど・みちお(本名・石田道雄)は、明治四十二(一九〇九)年十一月十六日、山口県都濃郡徳山町(現在の周南市)に生まれた。三歳のときに父が仕事のために台湾へ渡り、さらに五歳の時、母と兄妹たちも台湾の父のもとに行き、この時から祖父母との暮らしが始まる。やがて祖母が亡くなり、祖父と二人きりで過ごす生活が始まった。孤独な少年は、小さながすかなものを見るのが好きだった。煙草入れの金具に彫刻された龍のうろこの一枚一枚や、きゅうりの花に埋もれる小虫の触角などといった小さなものを見つけては、顔をすり寄せ一緒に息をするように見とれていたという。この幼少期の体験が詩人としての原風景となっている。

九歳で台湾の家族のもとへ行き、台湾では台北工業学校卒業後、台湾総督府につとめながら、児童雑誌『コドモノクニ』の北原白秋選に投稿した。二十五歳のとき『ランタナの籬』『雨ふれば』が特選となり、詩人としての道を歩み始めた。これ以後、『動物文学』『綴り方倶楽部』などの雑誌や『童魚』『昆虫列車』といった同人誌に投稿した。

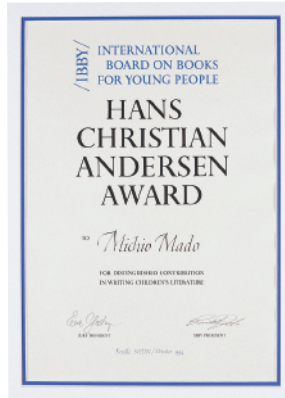
戦後は幼児雑誌の出版社で編集者をしながら、詩や童謡を発表し続け、『ぞうさん』『やぎさんゆうびん』『ふしぎなポケット』『いねんせい』になつたら』など数多くの童謡を生み出した。五十歳を目前にフリーとなつてからは、創作に専念。昭和四十三(一九六八)年に、第一詩集『てんぷらびりびり』を出版、第六回野間児童文芸賞を受賞。その後数々の児童文学界の賞を受賞した。平成五(一九九三)年、『まど・みちお全詩集』で第四十三回芸術選奨文部大臣賞。平成六(一九九四)年には、日本人で初めての国際アンデルセン賞作家賞を受賞。国際的にもまどの詩の真価が認められた。平成二十六(二〇一四)年二月二十八日に一〇四歳で亡くなるまで、生涯にわたり詩を書きつづけた。

まど・みちおの詩の魅力は、草花や虫などのちいさなものにまで向けられたあたたかな眼差しと、すべてのものがそこにあることだけ、生かされていることだけですばらしいのだという存在のよろこびをうたっていることである。

(文・松本久美子)



まど・みちお コーナー (周南市美術館)



国際アンデルセン賞 賞状・メダル